

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春期	2年～	2単位	選択
担当教員			
水本 和実			

授業の目的	東西冷戦が終わり、21世紀を迎えた国際社会では、ますます文化、民族、宗教、言語、習慣などの異なる人々が互いの「違い」を認め合いながら共存していく必要性が高まっています。でも、多文化からなる国際社会でひとたび摩擦や対立が生じると、容易に暴力的衝突に発展しかねません。広島が経験した原爆被爆も、日米間の対立や摩擦がエスカレートした結果、引き起こされたと考えることができます。そうした暴力的衝突をどうすれば防ぐことができるのでしょうか。この講義では、具体的な事例を取り上げながら、多様な文化をもつ国際社会が平和共存していくための方法について考えます。
授業計画	<p>第1回 講義のガイダンスおよび国際社会・国際文化の多様性と「文明の衝突」論 講義の概要とねらい 冷戦後、多様化する国際社会・国際文化について考え、冷戦後の紛争要因を予言した「文明の衝突」論について学ぶ。</p> <p>第2回 イスラムの社会と文化① イスラム教とは 9・11テロ以降、テロリストと誤解されやすいイスラム教社会について基礎知識を学ぶ。</p> <p>第3回 イスラムの社会と文化② 中東問題 宗教対立が背景にある中東・パレスチナ問題について、歴史的背景も含めて考える。</p> <p>第4回 南アジアの社会と文化① ヒンドゥー教とは 日本人に一見、なじみのないヒンドゥー教について学び、日本と数多くの接点があることを理解する。</p> <p>第5回 南アジアの社会と文化② インド・パキスタンの独立 第2次大戦後、独立したインドとパキスタンは、今日、なぜ対立しているのか。独立の経緯からその要因を理解する。</p> <p>第6回 南アジアの社会と文化③ 仏教とマザー・テレサの国 日本に最もなじみの深い仏教を生み、カトリック修道女マザー・テレサの活動の舞台ともなった南アジアについて、その文化の多様性を、仏陀やマザー・テレサの活動の一端から学ぶ。</p> <p>第7回 韓国・朝鮮の社会と文化① 古代から江戸時代までの日本とコリアの関係を学ぶ。</p> <p>第8回 韓国・朝鮮の社会と文化② 幕末・明治維新以降の日本とコリアの関係を学ぶ。</p> <p>第9回 カンボジアの内戦と虐殺、復興 東南アジアの小国カンボジアが経験した紛争・内戦・大虐殺と、そこからの復興について学ぶ。広島からの平和構築についても理解する。</p> <p>第10回 アメリカの社会と文化 多民族国家アメリカがめざす人種統合と、今なお潜む白人・黒人の対立について、ある高等学校の事例から学ぶ。</p> <p>第11回 アメリカの原爆開発と投下、戦後の核軍拡 アメリカによる世界最初の原爆開発と投下、戦後の米ソの核軍拡について学ぶ。</p> <p>第12回 原爆投下をめぐる「記憶」の違い 広島・長崎への原爆投下について、全く異なる理解をしている日本、アメリカ、中国、韓国の見方について学び、どうすれば共通認識を築くことができるかを考える。</p> <p>第13回 生物・化学兵器と大久野島の毒ガス 核兵器の被害国・日本は、核兵器と並ぶ大量破壊兵器である生物兵器と化学兵器に関しては、加害国であった。その負の歴史を、広島・大久野島の毒ガス製造から学ぶ。</p> <p>第14回 劣化ウラン兵器の問題 核兵器や原爆に使用するウランを取り除いた残りのウラン（劣化ウラン）を用いた砲弾や機銃弾が、イラクやボスニアなどの戦場で、兵士や住民に深刻な放射線被害をもたらしている。その実態について学び、国際的な規制の必要性について考える。</p> <p>第15回 広島の被爆体験と核兵器の危険性 継承の危機にあるといわれる「被爆体験」とは、個々人の体験談の集積だけではなく、広島が経験した核兵器がもたらす危険性の総体である。そのようにとらえた上で、その継承の仕方や国際社会に対する広島の役割について考える。</p>
授業成果	
テキスト	教科書は使用しません。必要な資料は毎回、講義で配布します。
参考書	核は廃絶できるか 水本和実 法律文化社 2009 978-4-589-03193-8 21世紀の核軍縮 広島平和研究所編 法律文化社 2002 ISBN4-589-02599-X 人道危機と国際介入 広島市立大学広島平和研究所編 有信堂 有信堂 2003 ISBN4-8420-5547-2
成績評価の方法	中間レポート（20%）、期末レポート（40%）および出席・講義での積極性（40%）で総合的に判断します。

その他	各回の講義のトピックスは一応の目安で、講義の進展に応じて適宜、変わることがあります。参考文献については、講義で別途、指示します。講義ではビデオ教材を積極的に使うほか、受講生との意見交換や積極的な発言を期待します。教室では、できるだけ前方の座席に着席して下さい。
参考URL	
ベンチマーク/到達目標	
	<p>①講義(知識伝達) ②演習 ③実験・実習 ④ディスカッション、ディベート ⑤問題(課題)発見解決(PBL) ⑥体験(実践)学修(学外実習・インターンシップ) ⑦調査学修(フィールドワーク) ⑧その他(具体的に)</p> <p>A: グループワーク有り B: 発表(プレゼンテーション)有り</p>